

「日本語教育の参照枠」の指標に基づく日本語能力の自己評価ツールについて

○ 対象及び目的

国内外の日本語学習者を対象とし、ウェブ上のシステムで表示される Can do の言語活動がどの程度できるかを答えていくことで、自身の日本語能力を簡易に判断し、その結果を日本語学習の目標設定に役立てたり、レベルに合った適切な学習教材の提示をしたりすることで、自律的な学習を促していくことを目的とする。

○ 準備する言語（14 言語）

日本語、英語、中国語（簡体字）、韓国語、モンゴル語、フィリピン語、ベトナム語、クメール語、タイ語、ミャンマー語、インドネシア語、ネパール語、スペイン語（南米スペイン語）、ポルトガル語（ブラジル・ポルトガル語）。

○ 自己評価の方法

「日本語教育の参照枠」において、6 レベル、五つの言語活動（聞く、読む、話す（やり取り・発表）、書く）で、A 1 レベルから順に提示される Can do について、日本語学習者が、「1. できない」、「2. あまりできない」、「3. 難しいがなんとかできる」、「4. できる」の4段階で回答していくこと自身の日本語能力の評価を行う。同時に、学習者のレベルに合った教材を示す機能を設ける。

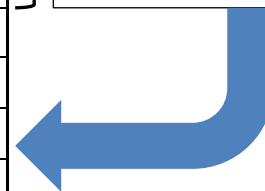
○ 使用する Can do

「日本語教育の参照枠」Can do の量的検証に関する調査報告書」で示す、Can do の困難度が適正であると判断される「代表項目」118 項目を中心に、6 レベル、五つ言語活動ごとに五つ程度、合計 150 項目程度の Can do を使用する。

○ 評価の例

レベル	Can do	1. できない	2. あまりできない	3. 難しいがなんとかできる	4. できる
A 1 聞く	Can do①	0	1	2	3
	Can do②	0	1	2	3
	Can do③	0	1	2	3
	Can do④	0	1	2	3
	Can do⑤	0	1	2	3
A 2 聞く	Can do①	0	1	2	3
	Can do②	0	1	2	3
	Can do③	0	1	2	3
	Can do④	0	1	2	3
	Can do⑤	0	1	2	3

8 ポイント以上取れた段階で次のレベルに遷移する。
 ・「4.できる」なら、三つ以上
 ・「3.難しいがなんとかできる」なら、四つ以上



*ただし、例えばC 2 「聞くこと」のように Can do が 2 項目しかない場合は、個別に検討する。